

いたな話



昨年四月より開始された当誌のWEBでの発行は、エポックメイキングとなりました。平成一三年四月号で連載を始めたこのコラムも、この一年で様相が変貌したということです。紙媒体での発行は残念ながらコスト的に維持出来なかったということなのですが、端的に云って購読者数が固定費を賄うに至る数値に及ば

新劇・ドラマ

物書き・自己表現と言え

ば、舞台という表現の場も私個人の歴史であります。若かりし日々の創作劇から始まり、学生時代の労演活動は青春の一ページでした。職業生活に就いて暫くの後に観劇活動も辞めましたが、あることを契機として、

「Be My Baby」は、徳島市市民劇場で、11月15日（金）から17日（日）まで、3日間、連続公演されます。

ホークン・ランドウィグ
第1回公演 主演 小田嶋隆
演出 徳山 仁

CAST
加藤 隆一
岡田 英樹
加藤 悠
東野 史浩
岡崎 真子
高橋 こと美

30分間 一般公開
¥500 (50)

「Be My Baby」は、徳島市市民劇場で、11月15日（金）から17日（日）まで、3日間、連続公演されます。

★あわぎん木ー几 徳島文化会館
3/16 (木) 夜8時半
3/17 (木) 昼1時半

★鳴門市文化会館
3/18 (金) 夜8時半

徳島市民劇場

TEL 088-653-1752
FAX 088-653-1755

再開することになりました。平成二二年のことです。それらの経緯もコラム記事として掲載しました。懐かしい限りです。

持続することの思い

執筆・観劇に係わらず、継続的な作業は、思わぬ効果を齎します。つまり、作業と自分史が重なってくる

のです。あの頃は・・・、この頃は・・・想い出に耽るには早過ぎますが、結構楽しいものです。

加藤健一事務所

図①は、徳島市民劇場の三月例会のポスターです。担当劇団は「加藤健一事務所」、二年半ぶりの登場です。前作は「モリー先生との火



図②；高市さん、お店、全景

曜日」、死という重いテーマを担った舞台でした。あの頃の環境・心境の有様を思い出してしまいます。今



図③；高市佳彦社長様。オーナーシェフぶりが見事です。

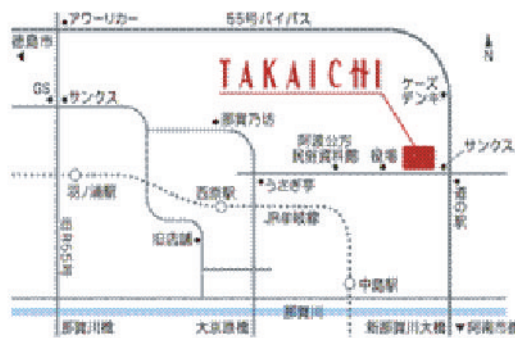
ビジネスも歴史とドラマ

歴史と云えば、中小企業診断士歴も満一五年となります。この二年、本格的にコンサル活動に専念することとなりました。

この活動は、多くの出会いを与えてくれました。事業活動は経営者の人生ドラマであるとも言われます。近時、出会いのあったドラマトゥルギーのある企業を紹介させていただきます。

菓子道高市・高市さん

図②は、オーナーシェフ高市佳彦さん（図③）が経営するスウィーツショップ「菓子道高市」のお店の全景です。アクセスは図④



図③；高市さんアクセス

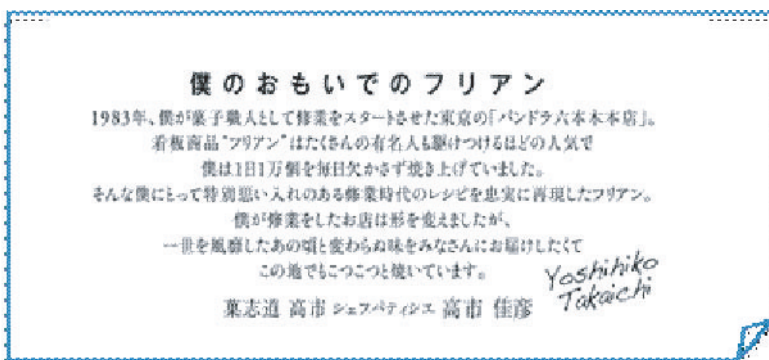
ドラマは思い出から出発

では、何がドラマなのでしょう？

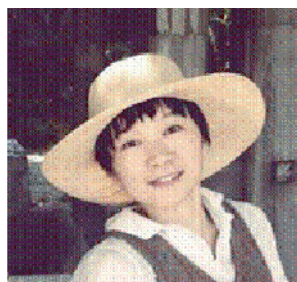
詳細は、とくしま産業振興機構発行の「企業情報とくしま三月号」をご覧ください。ここに詳しくは書けません、当社の強みは、代表者、高市佳彦氏の人生経験にあるのです。

若き頃の「東京六本木パンドラ本店」での修行経験を礎として、80年、出身地那賀川町で「菓子道高市」を開店します。その後、徐々に知名度を高め、来店顧客さまの商圏も県下一円となるようになりました。約20年を経て現在地に移転、躍進期に入っています。

僕のおもいで frian



図⑤；「僕のおもいで frian」のリーフレットより



図⑥；中張陽子先生。静謐な存在感に溢れたデザイン系コンサルです。

ドラマには演出家が必要

図⑥の中張先生が、この舞台の演出家を任じてくれました。笑顔の素敵な才媛です。この方を主人公とした脚本を書いてみたいという衝動に駆られています。

図⑤は、当店の商品、friantのリーフレットを写したものです。短文で端的な表現で一つの人生が表現されています。過去、多くの戯曲も見えて来ましたが、どれも秀作に勝るとも劣らぬ名文です。あえて商品の写真等は掲載しません。一度、来店していただき実物のfriantと面談されることをお勧めします。